



འབྲུག་རྒྱལ་ཁབ་

ブータン便り

第11号 2019年7月10日
JICA SV 2018-2 観光 白川 浩司

クズザンポーラ！7月に入り、気温がぐんぐん上がるようになりました。湿度も高くなってきて、汗もよくかきます。そんな気候であっても公務員はゴノキラを着て出勤しなければなりません。キラには夏キラと呼ばれる化繊の薄い素材のものがあるのでまだ女性はいいと思いますが、男性用のゴは薄手のものでも着ていて暑い。ブータンもクールビズを導入してほしいと切に願います。

さて、世界の旅行者から、「最後の秘境」、「シャングリラ」などと評されるブータンですが、大変残念なことにいたるところで不法投棄されたゴミを見かけます。今号ではブータンのゴミ問題とその取り組みについてお伝えします。

ゴミ問題

赴任した当初、ティンプーの街はそんなに汚いとは感じませんでした。でもしばらくここで生活して街角や川べりなどに目が行くようになると、いたるところでゴミが捨てられていることに気づきました。ゴミは人の目に触れないように、低木の下やコンクリートのすき間などに隠すように捨ててあるのです。

ゴミはペットボトルやガラス瓶、お菓子の袋、レジ袋、タバコの箱など、土に還らないものばかり。特にプラスチックが多く目につきます。人口の少ないブータンは、菓子類や飲料、生活雑貨、電化製品など、あらゆるものを輸入に頼っています。それらの容れ物の多くがプラスチック。ブータンで排出されるゴミの12%はプラスチックだそうです。

ゴミの収集や処理がどのようにされているのか、政府当局から情報を得たものではありませんが、次のように同僚や先輩隊員たちから教わりました。

ティンプーの場合、ゴミはWetとDryに分別して出します。Wetは残飯や野菜屑など土に還るもの、Dryは紙類、プラスチック、ビン、缶といったWet以外のもの全て。私のアパートでは火曜の夜にWetを、木曜の夜にDryを玄関前に出しておけば、掃除婦さんが翌朝に回収して、ゴミ収集車が来た時に出しているようです。日本のようにゴミ集積場に出しておくのではなく、ゴミ収集車が来た時に



家からゴミを持ち出すことになっています。

次に収集されたゴミの処理についてですが、Wet は一部コンポスト化しますが基本は埋め立て。Dry はプラスチック類を分別して残りは埋め立てるそうです。分別できたプラスチック類はインドに運ばれ、リサイクルまたは焼却されるらしいです。ブータンが日本と違う点は、ゴミは焼却しないでそのまま埋めてしまうこと、収集時には分別しないでパッカー車に積み込み、収集した後に作業員が分別することです。

ゴミを焼却すると二酸化炭素が放出されるので、カーボンネガティブを標榜するこの国はゴミ焼却施設を作りたくないのかもしれませんが、ゴミ埋立処分場の容量には限界があるし、ガスの発生や水質汚濁等の環境汚染問題も発生してしまうので、長期的展望に立ってハードウェアの整備を考えるべきだと思います。

そういったハードウェアや分別・収集・処分にいたるシステムの整備は政府が責任持って取り組むべきことですが、一方で自分が出したゴミを適切に管理するのは個人の責任です。今のルールに従えば、出たゴミはWetかDryに分けて決められた日に出すだけです。しかしブータンでは、街中だけでなく、山や川など自然豊かなところにもゴミをポイ捨てる人が後を絶ちません。

ゴミ問題はこの国にとって大きな問題と認識されていて、最近では政府のみならず、王室もこの問題に対する取り組みを始めました。

ゴミのない社会を実現するための取り組み

ブータン政府国家環境委員会（NEC）は "Zero Waste Society by 2030"（2030年までにゴミのない社会を）というビジョンを掲げ、すべての組織や市民を巻き込みながら、社会的環境的に責任ある国家を建設すると謳っています。NEC は環境保全を促進するための啓発活動を行ったり、清掃キャンペーンなどを主導しています。

Zero Waste Hour

2019年6月2日の第4代国王戴冠式記念日に、王妃殿下が Zero Waste Hour, "My Waste, My Responsibility"（ゴミゼロ時間「私のゴミは私の責任」）という取り組みを提唱されました。これは、全ての政府機関や、県、郡、市、NGO、市民団体などに対し、毎月2日に1時間かけて職場周辺の清掃を行うことを求めたものです。多くのブータン人をこの活動に参加させることで、ゴミの不法投棄をなくし、自分が出したゴミは自分で管理するといった社会的責任感を植え付けることが目的です。

ブータン政府観光局（TCB）は7月2日の午後4時から1時間 Zero Waste Hour 活動として、全職員が職場周辺のゴミ拾いをしました。職場の隣の TARAYANA Park という公園には、ペットボトルやお菓子の袋などがたくさんポイ捨てされていました。花を植えるためのプランターもゴミ箱代わりに使われていて、なんとも情けない気分になりました。



世界水の日

毎年3月22日は、国連が定めた「世界水の日」。きれいで安全な水を使えるようにすることの重要性を世界中の人々と一緒に考えるための日です。ブータンではNECが主導して、3月22日にティンプー市内を南北に流れるワン・チュ川周辺の清掃イベントが行われました。政府機関や国際機関、学校、NGO などからたくさんの参加者がワン・チュ川に集まり、それぞれ指定された持ち場のゴミを拾いました。



私も TCB の一員として清掃活動に加わりました。ワン・チュ東岸の土手沿いには、不法投棄されたとみられるゴミが土で隠されるように覆われていました。そこから手作業でゴミを拾い出すという作業はとても大変です。途方に暮れました。先にも書いたように、この国にはゴミ焼却施設がないので、なんでも埋めてしまいます。文字通り、臭いものに蓋をすだけ。本気で国の未来のことを考えるならば、ハードウェアの整備に必要な財源を振り分けるべきではないでしょうか。それでも財政上かなわないならば、そのときこそ援助の出番だと思います。



プラスチック製レジ袋禁止令

NEC は、2019 年 4 月 1 日から商店でプラスチック製のレジ袋を使用、販売することを禁止しました。これは 1999 年に出されたプラスチック禁止通知を補うもので、違反した場合、一度目は Nu.500、2 度目は Nu.1000 の罰金、3 度目以降は商業ライセンスを停止するという罰則が設けられました。プラスチックの代わりに、ジュートや綿、紙製の袋を用いることや、消費者のマイバッグ使用を奨励しています。私は倉敷市からいただいた帆布バッグをよく持ち歩いています。丈夫でたくさん詰められるので買い物に適しています。

トレッキングルート清掃事業

TCB は観光地の美化促進を図るため、トレッキングルートの清掃活動を行っています。5 月 25 日から 29 日までの 5 日間、TCB と覚書を交わした旅行会社がドゥックパス・トレッキングルートの清掃事業を実施しました。私もこの事業に参加させてもらい、12 人のボランティアと 2 人の TCB 職員とともに、ゴミを拾いながら 50 km のトレッキングルートを歩きました。

ドゥックパス・トレッキングルートは人気のルートで、道はよく整備されていて歩きやすいです。しかし残念なことに、ルート周辺のいたるところにゴミが落ちていました。特に多いのはキャンプ地周辺で、トレッキングに同行する料理人やガイドがゴミを持ち帰らずに放置していると思われます。またゴミの多くはルート上に落ちているのではなく、藪のような見つけにくいところに投げ捨てられていて、拾い出すのが大変でした。拾ったゴミは 120 ぐらいの大きなズダ袋に入れて馬で運びます。5 日間で 40 袋ぐらいを麓まで運びました。

山を利用するのは外国人トレッカーだけでなく、ブータン人ハイキング客やヤク飼いもいます。そこで、ブータンの美しい自然を利用するこれらすべての人たちにゴミを持ち帰ってもらうよう訴えるため、また世界中の人々にブータンの現実を知ってもらうために、清掃事業の様子を記録した動画を作成し、TCB の Facebook ページと YouTube で公開しました。以下のリンクからご覧いただけます。

 [YouTube 2019 Drukpath Trail Cleaning Campaign](#)



Jimilangtsho キャンプ地 (標高 3885m)



国花ブルーポピー



藪の中のゴミを拾い出すボランティア



トレッキングスタッフにゴミ持ち帰りを指導するTCBスタッフ



キャンプ用具、食材、ゴミ袋を運ぶ馬



後をついてくる山の犬たち



40袋分のゴミを回収



清掃事業に参加したボランティア

今号ではブータンのゴミ問題とその対策事例をご紹介しました。ゴミを極力減らすこと、適切に処理することは地球規模の課題です。ブータンではゴミのポイ捨てをなくすことが喫緊の課題だと思います。ポイ捨てをなくすために自分たちにできることはないか、ボランティア同士でもよく話題に上ります。このことについてアイデアをお持ちの方、アドバイスをいただければ幸いです。よろしくお願いします。